横浜瀬谷
「価値ある時間」

打撃陣

（左から）
山本夏輝（2年＝一塁手）
立山翔大（2年＝中堅手）
笹木桜介（2年＝三塁手・投手）

大型打者の3番・山本、シャープな打撃をみせる4番・立山、チーム打撃に徹する笹木のクリーンアップが勝負強さを発揮し得点を奪っていく。

投手陣

五十嵐尚貴（2年）　佐藤唯（2年）　笹木桜介（2年）

技巧派・佐藤、成長著しい笹木、ポテンシャルを秘める五十嵐というタイプの違う2年生投手陣で、ゲームを作り継投で勝利へつなげていく。

スローガンは「一球にかける想い」60歳OB指揮官と選手たちの「絆」

2023年に瀬谷と瀬谷西が統合し、新たに開校した「横浜瀬谷」。2026シーズンの選手たちは「一球にかける想い」をスローガンに、春・夏大会へ向かっていく。

■充実した環境で練習に励む

2023年に瀬谷と瀬谷西が統合した「横浜瀬谷」。学校所在地は旧瀬谷の校舎で、野球部の文化はそのまま継承され、選手たちが情熱的に練習に向かう日々が続く。広いグラウンドのほかブルペン5カ所、打撃ケージ2カ所などが整備され、充実した環境でトレーニングに励むことができる。横浜瀬谷は、野球が好きで本気で取り組みたい人、野球に本気でぶつかっていきたい人、一生付き合える仲間と出会いたい人、そんな想いや志を持った選手たちが集まる「野球部ファミリー」だ。2012年夏、2020年夏に4回戦へ進出。2016年夏の3回戦では、東海大相模と対戦して2対7で迎えた9回表に4点を奪って猛追する激闘を見せた。

■OB監督の野球人生集大成

選手たちに厳しくも温かい眼差しを送るのは、OB指揮官の佐々木圭監督だ。瀬谷から日体大へ進み、栗原、厚木東、厚木、横浜旭陵で指導。厚木時代にはベスト16進出を果たしているベテラン指揮官。2022年度に母校・瀬谷に着任すると、2023年秋から“後輩たち”と共に戦っている。1965年生まれで、昨年に60歳の区切りを迎えた。選手たちは、背番号60の赤いトレーニングウェアをプレゼントして大先輩の還暦を祝った。佐々木監督は野球人生の集大成として、選手たちを指導している。「昭和、平成、令和と時代は変わったが、選手たちが野球を楽しむ姿は変わっていない。高校野球は人生で一度の舞台。生徒たちにとって価値ある時間になってほしい」と語る。指揮官と選手の絆がチームを強くする。

■1プレーの重みを理解して戦う

2026年の横浜瀬谷は、2年生9人、1年生17人の編成だ。砂越楓太主将（2年＝二塁手）がチームをまとめて、良いムードを作り出している。チームを支えるのは投打の要・笹木桜介（投手・三塁手）、185センチのアスリート系プレーヤー山本夏輝（2年＝一塁手）、シャープな打撃をみせる4番・立山翔大（2年＝中堅手）。投手陣は、五十嵐尚貴（2年）、佐藤唯（2年）、笹木の継投で勝負していく。秋予選では1つのプレーによって県大会出場を逃したが、チームは「一球にかける想い」をスローガンに再起を期す。伸び盛りの1年生の成長により競争は激化、チームには緊張感が生まれている。砂越主将は「秋の悔しさを忘れずに、一球一球に想いを込めて戦っていく」と視線を上げる。横浜瀬谷は2026年、新たな歴史を紡いでいく。

横浜瀬谷高校

【住所】神奈川県横浜市瀬谷区東野台29- 1
【創立】2023年（瀬谷は1974年、瀬谷西は1978年）
【甲子園歴】なし
瀬谷と瀬谷西が再編・統合されて2023年4月に「横浜瀬谷」として新たに開校。瀬谷高校の校舎が横浜瀬谷となった。

主将のチーム分析

砂越楓太 主将
（2年＝二塁手）

一球にすべてをかける

「今年の横浜瀬谷は2年生9人、1年生17人ですが、学年の枠を越えて切磋琢磨できるチームです。1年生が力を発揮できるように僕たち2年生がサポートしていきたい。スローガンは『一球にかける想い』。一球に集中して春・夏に一つでも多くの勝利をつかみたいと思います」

横浜瀬谷・佐々木圭監督

学校の多大なる協力に感謝している

「今年度60歳の節目を迎えましたが、母校で指導できることへの喜びとやりがいを感じながら、生徒たちに寄り添っています。学校の多大なる協力や応援に対して感謝すると共に、大会の結果で応えていきたいと思っています」

1965年神奈川県生まれ。瀬谷―日体大。栗原、厚木東、厚木、横浜旭陵を指導。厚木時代はベスト16へ進出。2022年度に母校・瀬谷に着任、2023年秋から監督を務める。指導人生の集大成として母校指導に情熱を注ぐ。